

現計画策定以降における本市の環境分野の動向について

北九州市環境モデル都市行動計画

平成 20 年 7 月、温室効果ガスの大幅な削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市として、政府から「環境モデル都市」に選定された。選定を受け、地域と協働で低炭素社会を実現するため、平成 21 年 3 月に、「北九州市環境モデル都市行動計画（北九州グリーンフロンティアプラン）」を策定した。この計画では、平成 21 年度から 25 年度の 5 年間で具体化する取組みを示している。

北九州スマートコミュニティ創造事業

平成 22 年 4 月、国から「次世代エネルギー・社会システム実証」を行う地域として、全国 4 地域の一つに「北九州スマートコミュニティ創造事業」を提案した本市が選定された。次世代送電網（スマートグリッド）を中核に、交通システムやライフスタイルの変革を図る様々な実証を八幡東田地区（約 120ha）で行い、21 世紀の豊かな社会の創造を目指している。

アジア低炭素化センターの設立

平成 22 年 6 月、アジア地域の低炭素化を通じて、地域経済の活性化を図るための中核施設として、「アジア低炭素化センター（アジア・グリーンキャンパス）」を八幡東区平野に開設した。本市の蓄積してきた地元企業の環境技術を、アジア諸都市とのネットワークを活用しながら、ビジネスとして移転することを支援し、また、アジア専門の人材の育成や調査研究なども行い、アジアの低炭素社会づくりを進めていく。

北九州市生物多様性戦略の策定

本市は、これまで「北九州市自然環境保全基本計画」を平成 17 年に策定し、自然環境分野での総合的・計画的な取り組みを進めてきた。

一方、国は平成 20 年 6 月に、「生物多様性基本法」を制定し、その中で自治体は生物多様性戦略を策定することが盛り込まれた。また、平成 22 年 10 月に名古屋市で COP10 が開催され、生物多様性の損出を止めるための行動計画「愛知ターゲット」が採択されるなど、国内外において生物多様性の保全に関する機運が高まっている。

これらの状況を踏まえ、「北九州市自然環境保全基本計画」を改訂し、同法に基づく地域戦略「北九州市生物多様性戦略」を平成 22 年 11 月に策定した。

東日本大震災を契機とした省エネへの取組

平成 23 年 6 月に「北九州市節電推進本部」を設置して様々な対策を進めている。事務所内照明の間引きやエレベーターの一部停止、ノー残業マンスの徹底など、市役所自らが率先して省エネを進めるとともに、省エネチェックシートの配布や省エネ王コンテストの実施、省エネ説明会の開催などを通して、市民や事業者に対して協力を呼びかけている。